



NPO 法人日本防火技術者協会 平成24年度通常総会報告

日時：平成24年1月24日(火)
13:00~13:30

場所：東京理科大学・森戸記念館

議題内容

- 1) 平成23年度事業報告
- 2) 平成24年度活動計画
- 3) 会計報告、予算計画
- 4) 監査報告
- 5) その他

〔総会参加者〕

会員数：136名(賛助会員を除く)

総会成立条件：委任状を含めて会員の過半数
の出席(定足数68名)

出席者：出席21名、委任状63名
合計84名

〔配付資料〕

- (1) 平成23年度 事業報告書、定款変更について
- (2) 平成24年度事業計画書
- (3) NPO法人日本防火技術者協会活動予定
- (4) NPO法人日本防火技術者協会平成23年度決算書
- (5) 平成23年度 会計貸借対照表
- (6) 平成23年度 会計収支計算書
- (7) 平成23年度 会計財産目録
- (8) 平成24年度 会計収支予算書

〔審議事項〕

- (1) 第一号議案 議長の選任
- (2) 第二号議案 議事録署名人の選任
- (3) 第三号議案 平成23年度事業報告
- (4) 第四号議案 平成24年度活動計画
- (5) 第五号議案 平成23年度会計報告
- (6) 第六号議案 平成24年度予算
- (7) 第七号議案 監査報告

議事の経過の概要及び議決の結果

審議に先立ち福井潔理事長の挨拶があった。

(1) 第一号議案 議長の選任

福井潔氏を議長に指名し、全員異議なくこれを承認した。

(2) 第二号議案 議事録署名人の選任

長谷川晃一氏、土屋伸一氏を選任することを全員異議なく了承した。

(3) 第三号議案 平成23年度事業報告

堀田博文総務理事より平成23年度活動結果報告があり、審議し、全員異議なくこれを承認。主な活動内容は、以下の通り。

1) 防火技術者の国際連携事業

第8回 SFPE 性能基準と火災安全設計法に関する国際会議報告会(1月28日) 東京理科大森戸記念館、40人

2) 調査研究事業

- ① 見学研修会「大崎ソーニール」、3月11日、40人
- ② 講演会「クライストチャーチの地震とビルの挙動や被害について」、5月25日、東京理科大森戸記念館、18人
- ③ 防火研修会「感知器について」、6月7日、東京理科大森戸記念館、28人
- ④ 防火研修会「FMグローバル」、9月6日、東京理科大森戸記念館、31人
- ⑤ 見学研修会「大林組技術研究所」、10月5日、32人
- ⑥ 防火研修会「既存小規模病院における火災安全性に関する日本・台湾の比較考察」、11月29日、東京理科大森戸記念館、35人

3) 防火技術者の連携事業

ホームページメンテナンス、随時

(4) 第四号議案 平成24年度活動計画

堀田総務理事より平成24年度活動計画についての説明があり、審議し、全員異議なくこれを承認。主な活動計画は以下の通り。

1) 防火啓発事業

老人福祉施設、学校教育施設の避難安全に関する研究会を継続し、特に高齢者施設の避難安全、改善に向けた助言、施設従事者に対する教育プログラムの作成を行い成果を出前講座などで紹介する。(3月、他)

2) 火災安全の広報事業

一般のビルや公共空間や地下の火災時の状況、避難安全の確保などについて防火技術者の立場から雑誌、ホームページなどで啓発する。(随時)

3) 調査研究事業

- ① 防災上特徴のある竣工建築物を、性能設計の視点から調査するとともに、一般市民の啓発を図る。(5月、他)
- ② 建築物の火災安全性能と防火技術に

ついて、防火研修会により火災安全防火技術者の技術や倫理向上に資する。建築学会、火災学会などとの共催を行う。(3、6、9、11月)

4) 防火技術者の連携事業

- ① 防火技術者の技術力向上、倫理維持をめざしホームページ、Email 配信などにより情報提供と相互連携、技術講習会をおこなう。(各月)
- ② 国際的なシンポジウムに参加する。国際的な問題をテーマとするシンポジウムに講師を招聘・派遣する。(6月、他)

(5) 第五号議案 平成23年度会計報告

中島秀男会計理事より平成23年度会計報告があり、審議し、全員異議なくこれを承認。

(6) 第六号議案 平成24年度予算

中島会計理事より平成24年度予算の説明があり、審議し、全員異議なくこれを承認。

(7) 第七号議案 監査報告

高橋太監事より、平成23年1月1日から平成23年12月31日までの事業年度における理事の業務状況および財産の状況についての監査報告がされた。

福井理事長 挨拶

2012年度の総会に当たり、ご挨拶を申し上げます。昨年の総会において理事長および支部長に推挙され、会員の職能確立、国際化に向けての活動、社会への貢献や啓発という三つの活動方針を掲げましたが、これらについてこれまでの活動、これからの展望を簡単に説明させていただきます。

まずは会員の職能の確立の問題です。この協会の設立当初から防火技術者の社会的な認知度を高め、防火技術者が高い技術力と誇りを持って仕事ができる環境づくりが防火技術者協会の目指すひとつの大きなテーマでありました。この問題に対して昨年は引き続き職能ワーキンググループの中で、具体的実現として資格認定制度の設立に向けて取り組んでまいりました。資格の付与の条件や、資格の認定の試験等具体的な方法について議論を重ね、特に非常に幅広い職域への拡がりがある防火技術者を包括的にどのように取り込んでいくかが議論の焦点となりました。その一年



日本防火技術者協会ニュース

特定非営利活動法人日本防火技術者協会

間の成果として今年度の総会で、その素案をご説明したいと思います。この内容が総会であらかたの賛同を得ることができれば、今年度のさらなる精査を経て、来年の設立10周年というひとつの節目に制度の実施を開始したいと考えています。

二番目は国際化に向けての活動です。グローバル化という大きなうねりの中で、防火技術についても国際的な標準化が進んでいます。また日本経済の停滞から脱するには建設業界でも海外へ打って出ることが必須ということは共通認識となっています。そのような中で、昨年は4月に韓国で開催されたアジア地区のSFPE支部間交流会、訪日した海外の防火技術者による講演会、海外火災保険基準の勉強会などを開催しました。また、10月に開催されたSFPEの年次総会で、日本支部が、Chapter Excellence Awardを、また関沢理事がPeter Lund Awardを受賞しました。これらの受賞は、我々のアジア地区における積極的な活動が評価されたものと考えております。また来年、香港で行われるSFPE主催の性能設計に関する国際会議における超高層ビルのケーススタディに日本支部から参画するべくワーキンググループにおいて準備を進めています。来年はこのシンポジウムへの参加を軸に、国際的活動を進めていきたいと考えています。

三番目は、社会への貢献や啓発活動です。昨年は東日本大震災という私たちが経験したことのないような大きな災害を経験しました。防火という点でも広域の地震火災や津波に伴う火災など、見過ごすことのできない災害が発生しました。これらに対して、防火技術者が個々の職責においていち早く調査、検討を行い、その成果を発信し、啓発したことは、我々の存在意義を高めるうえで大きな成果だったと考えられます。残念ながら協会としては義捐金を送るにとどまりましたが、これからは復興まちづくりに向けて、防火という観点から支えていくべき時期であると思いますので、機会があれば協会としての協力の可能性を探っていきたくと考えています。震災関連以外では、高齢者施設のWGが社会啓発活動として積極的に活動して頂いております。昨年は、高齢者施設への防火に関する出張講座を実施し、好評を得ています。来年も引き続き協会の社会貢献の柱として活動していきたいと考えています。現在、

昨年の地震を機に、防災に関する社会の関心がひときわ高まっています。防火についても災害安全の一つの柱として認識され、建物や都市の防火性能を高めていく良い機会だと思っておりますので、協会としても積極的な活動を引き続き行っていきたいと思っています。(2012/01/24)

「JAFPE 防火技術者資格制度」

本協会が認定する防火技術者の資格制度について検討してきましたが、その骨子(案)が総会で承認されました。詳細はHPでご覧ください。ご意見をお待ちしています。

骨子(案)

防火分野における性能的評価が進展かつ多様化し、また関連技術の高度化、複雑化が進んだ結果、高度の防火関連技術と職業倫理を有した人材が、社会的に求められています。

2006年の建築基準法の改正に伴い、構造設計一級建築士、設備設計一級建築士が定められた。これら専門性の高い技術の保有者が社会的に認められた結果です。

これらの社会動向を踏まえ、日本防火技術者協会では、職能WGを中心に防火技術者のあり方について検討を進めてきました。昨年度は、今までの検討結果に基づき、具体的に防火技術者の資格についての検討を行いました。

防火技術者は公的な資格が望ましいのですが、直ちにそのような公的資格を定めることは困難なため、第一歩として日本防火技術者協会の民間資格として「JAFPE 防火技術者」の資格を定めることとしました。

性能設計のように高度の専門知識を必要とする分野において、これらの業務を行う技術者は、その分野にふさわしい技術水準と倫理感をともに保有していることが条件です。しかしながら、これらに関する基準はなく、誰でも業務を行うことが可能です。そのため依頼者は過去の実績などを考慮し、個々に技術者の適性を判断せざるを得ないのが実状です。そこで要請された業務を行うにふさわしい技術水準、実務経験ならびに管理能力を有していると認められた者を「JAFPE 防火技術者」と認証し、当該技術者が所定の技術を所有していることを社会的に示すことにより、防火技

術が適正に適用され、火災安全に貢献すると同時に、防火技術者自身の身分を保証することを、この資格制度の目的とします。

対象とする技術者は、防火コンサルタント業務に従事する技術者、防火の設計実務者、防火設備の開発・設計者、確認・検査機関の技術者、施設の防火管理者、防火分野の研究者、消防職員等とします。

保有技術の項目、レベルは国際的な技術資格と調和が図られることとし、米国におけるPE*1と同程度を目標としますが、相互認証は将来の検討課題とし、当面は日本の実情に合わせて設定します。

制度制定の日程は以下のように計画しています。

- ・2012年 制度の詳細を決定、関連資料の準備、作成予定
- ・2013年 防火技術者協会創設10周年を目途に資格制度の制定予定

防火研修会 開催報告

「耐火木造の設計方法セミナー」

2010年の「公共建築物等木材利用促進法」施行により大型建築物に木材を使う機会が多くなっています。しかし、木造の耐火の性能と設計手法は周知されているとはいえず、耐火木造の建設には多くの困難があります。そこで、耐火木造の実現に向けた設計、施工の方法とスケジュールなどを経験者に語ってもらいました。

2012年1月24日(火) 14:00~17:30、於：東京理科大学 森戸記念館。参加者70名。

プログラム：

- ・耐火木造の可能性(桜設計集団：安井昇)
- ・ルートAの設計方法―東部地域ふれあい拠点施設(山下設計：安田俊也)
- ・ルートBの設計方法(ティーイーコンサルティング：宮林正幸)
- ・ルートCの設計方法―木材に着火しない設計事例／新木材会館(日建設計：福井潔)

高齢者施設防火研修会 開催報告

高齢者施設などの避難安全WGでは、活動の一環として、高齢者施設の介護職員などを対象とし、『特養老人介護施設で火災が発生したら』を主題とした第3回の防火研修会を東京理科大学の森戸記念館を会場として開催しました。開催にあたり東京理



科学大学火災科学研究センターG-COE の共催を、また社会福祉法人東京都社会福祉協議会の後援を得て、130 人の参加者を集めて盛況のうちに終了した。

本年度は、要望を受けて実施したいいくつかの出前講座での経験を踏まえて、特に日頃ご懸念されている「夜間少人数介護時における火災発生時対応の問題」に関して、火災発生時の具体的な対応行動、訓練のあり方と方法など基本行動方針策定に関するマニュアルについて紹介させていただいた。

また、前回同様にパネルによる報告の後、各施設において実務に携わっている方々との活発な意見交換の場を設けた。

会場からの質問としては、消防機関への通報方法、夜間の防災訓練、備蓄、地震による被害、対応方法など活発な討論が交わされた。詳細はHPをご覧ください。



主題：『特養老人介護施設で火災が発生したら』
会場：東京理科大学森戸記念館第1 フォーラム、第2 フォーラム
日時：平成24年3月5日(月) 14:00~17:00
主催：特定非営利活動法人日本防火技術者協会
共催：東京理科大学火災科学研究センターG-COE
後援：社会福祉法人東京都社会福祉協議会
参加者：130 名

プログラム：

第一部：

「東日本大震災における社会福祉施設での避難支援のあり方」 大西一嘉（神戸大学准教授）
「防火設備と現実的な防火対策の俯瞰」

栗岡 均（日本消防検定協会）

「老人介護施設の実践的な夜間防火マニュアルの考え方」 小林恭一（東京理科大学）

第二部：

「火災に気がついたときの最初の行動」

富松太基（当会 理事）

「設置している火災安全の設備を巧く使おう：知っておきたい火災感知器、消火器、スプリンクラー設備、火災通報設備」

堀田博文（当会 理事）

「煙を外に出そう：どの排煙口を誰があけるのか」 笠原 勲（当会 理事）

「入居者に優しい防火設備のあり方」

仲谷一郎（建材試験センター）

「夜間における老人介護施設の消防計画作成と消防訓練」

宇山幸逸（日本消防コンサルティング（株））

質疑応答

東京駅見学会 開催報告

2012 年 4 月 23 日（月）に東京駅見学会を開催しました。

東京駅丸の内駅舎は明治時代の建築界大御所の辰野金吾の設計により、1914 年（大正 4 年）に駅舎とホテルの複合用途として開業しましたが、第二次世界大戦東京大空襲（1945 年）により炎上、一部が倒壊してしまいました。終戦直後に修復工事が始まりましたが、戦後の物資不足の中、仮復旧の状態のまま工事が終了、その状態で駅舎、ホテルとして 60 年間使い続けていたものです。丸の内周辺の再整備と歴史的建造物の維持保全という動きのなか、創設当初の姿に復元するための工事が 2007 年に始まりました。2003 年に重要文化財に指定されています。

地上部は重要文化財ですが自主的に全館避難安全検証を適用して日本建築センターの評価を受けています。全館避難安全検証による適用除外項目は、竪穴区画、異種用途区画、歩行距離、排煙設備、内装制限です。地下階は建築物となり、全館避難安全検証の大臣認定を受けています。地下階と地上階の間に免震装置を設けており、建築物となる地下階のみを耐火性能検証の大臣認定とし、重要文化財の地上階は耐火性能検証の範囲には入っていません。



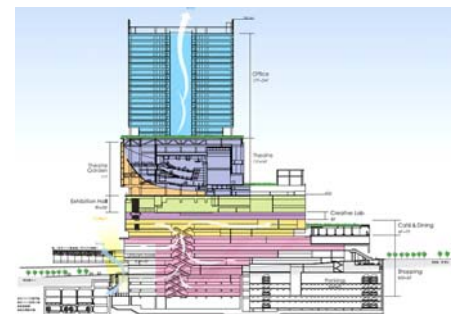
ヒカリエ見学会 開催予告

2012 年 6 月 29 日（金）にヒカリエ見学会を開催します。

この建物は、地下鉄駅舎、店舗、劇場、オフィスからなる複合建築です。ターミナル駅を含む開発で、エスカレーターによる縦導線を含んだ多層にわたる吹き抜けの

アーバンコアを設けて地下鉄駅や、跨道橋により橋上駅などと立体的に結ぶことで、街区をまたぐ歩行動線の利便性を図るとともに、都市のにぎわいを演出しています。また劇場を店舗と事務所の間の上層階に計画し、多層の吹き抜けを含むホワイエ空間から開放性と眺望を確保しています。

防災的には、複合用途建物として火災安全確保、吹き抜け空間の演出のための性能設計などがポイントです。



当日は、パブリックゾーンの他に劇場ホワイエ、事務所などの部分を含めて見学できる予定です。

助成金を獲得

高齢者 WG では、笹川財団助成金 33 万円、鹿島財団助成金 125 万円を受けることになりました。

牧功三氏の講演会を共催

「防火技術者の職能と産業分野のリスクマネジメント」というタイトルで 4 月 20 日（金）16:00 から、京都大学桂キャンパスにおいて講演会が開催されました。

牧功三氏は、Risk Logic Inc.所属で、防火技術者という職能、損害保険と消防火



日本防火技術者協会ニュース

特定非営利活動法人日本防火技術者協会

の歴史的な関わり、欧米企業のリスクマネジメント、日本国内の問題点などについて講演されました。参加者17名。

<http://hse.gcoe.kyoto-u.ac.jp/jp/event/2012/0420/index.html>

避難安全検証に係わる性能評価 運用ガイドライン検討WGの発足

高度な手法を用いた性能評価（ルートC）の円滑な運用を目指し、現状の課題の整理（運用的側面、技術的側面、その他）を行った上で、より好ましい性能評価を行うための具体的な方法を提案・実施することを目的として、メンバーを公募しWGを立ち上げました。活動内容は

- ① 運用ガイドラインの作成
- ② 避難開始時間等の標準的な計算法の検討
- ③ 防火技術者の能力向上
- ④ 中間報告会の開催

等です。

田中孝義先生 退職記念シンポジウム 報告

2012年6月9日（土）、京都市国際交流会館にて SFPE フェローでもある田中孝義先生の退職記念シンポジウム（最終講義およびパネルディスカッション）が行われました。

最終講義では、「火災安全設計の在り方を求めて」と題して、建設省建築研究所と京都大学防災研究所を通じて取り組んで来られた研究成果の一端と、その社会的背景を講話されました。広範な研究成果は当初予定した時間内には収まらず「2時間目」にまで及ぶ講義でした。常々先生は「設計は科学とは違う」ことを語ってこられましたが、それを実践されてきた足跡を再訪することができました。

パネルディスカッションは当初予定より短時間となりましたが、先生の薫陶を直接受けた方々から、各分野の状況と田中先生が研究を先導されてきた経緯が披露されました。

理事会等の開催結果

理事会を以下の日に実施しました。

1月10日(火)、2月21日(火)、4月2日(月)、5月8日(火)、6月26日(火)

新入会員（敬称略）

〔会員〕

高田あゆみ〔(株)明野設備研究所〕
高橋 済〔アイエヌジー(株)〕
吉増 要〔パ・ソナ・コーポレーション〕

〔学生会員〕

陶山和信〔東京理科大学・社会人〕

〔賛助会員〕

株式会社豊和

〔会員所属異動〕

池田憲一〔東京理科大学〕
青木 浩〔総務省消防庁〕
廣井 悠〔名古屋大学〕

会 員 136名
学生会員 5名
賛助会員 6名





日本防火技術者協会ニュース

特定非営利活動法人日本防火技術者協会



SFPE・Jニュース
(SFPE 日本支部
の活動 第28号)

SFPE 日本支部 2012年度通常総会報告

日時：平成24年1月24日(火)
13:30~14:00

場所：東京理科大学 森戸記念館

議題内容

- 1) 2011年度事業報告
- 2) 2012年度活動計画
- 3) その他

[2011年度活動報告]

[2012年度活動計画]

1) 防火技術職能 WG

2011年度はWGを7回開催。「防火技術者の資格制度」などについて骨子(案)を作成、公開し、広く意見を募集しています。2012年度には、シンポジウム等も予定しています。

2) 老人福祉施設、学校教育施設の避難安全に関する研究会

WGを8回開催し、出前講座も2回実施しました。

2012年度は第3回防火研修会を実施します。出前講座も積極的に行うため、テキストも作成します。映像などを中心とします。研究助成を受けることができました。

3) 見学会・講習会(事業WG)

見学会として2011年3月11日大崎ソニービル、10月5日大林組技術研究所、防火研修会として6月7日感知器について、9月6日FMグローバルについて、それぞれ実施しました。

2012年度も、NPO法人日本防火技術者協会の活動に参加します。見学会、防火技術研修を6回程度開催予定です。

4) 広報活動

NPO法人日本防火技術者協会のニュースを兼用しています。年2回発行。ホームページのメンテナンスも実施します。

5) 対外活動

2011年4月28日にソウルで開かれたSFPEアジア・オセアニア地区の交流会に参加しました。5月25日クライストチャーチの地震とビル挙動、性能設計の講演会を開催しました。11月29日小規模福祉

施設の日本台湾の防火比較の講演会を開催しました。

2012年6月20日~22日に香港で開催予定の第9回性能設計と火災安全設計法に関する国際会議に、6月23日には香港で開かれるSFPEアジア・オセアニア地区の交流会に参加予定です。

2011年8月にWGを立ち上げ、2012年2月にケーススタディ検討結果を提出済みです。

SFPE eNews から

2012 SFPE Annual Meeting : Professional Development Conference and Exposition, October 14-19, 2012, Hyatt Regency Savannah in Savannah, GA.

2013 SFPE Annual Meeting: Professional Development Conference and Exposition, October 27 - November 1, 2013, Omni Hotel & Resorts Downtown Austin

Journal of Fire Protection Engineering Vol.22, No.1, February 2012

SFPE classic paper review: A review of classic work by Dr William J. Parker on heat release rate measurements by oxygen consumption (有名論文のレビュー: 酸素消費法による発熱速度測定に関するDr WilliamとJ.Parkerによる往年の研究のレビュー) **J Randall Lawson**

An evolutionary approach for fire risk assessment in Brazilian slums(ブラジルのスラム街における火災危険度評価に関する発展なアプローチ) **AM Claret, EL Baranoski, and M Felicetti**

Detection of a typical arson fire scenario – comparison between experiments and simulations (典型的な放火の感知実験とシミュレーションの比較) **Nils Johansson, Jonathan Wahlqvist, and Patrick Van Hees**

Benchmarking of Container Analysis Fire Environment simulation using the memorial tunnel fire ventilation tests (トンネル火災の換気実験結果を用いた火災環境分析法の基準化) **NR Chalasani, Miles Greiner, and Ahti Suo-Anttila**

Journal of Fire Protection Engineering Vol.22, No.2, May 2012

Understanding and representing staff pre-warning delay (火災時におけるスタッフの異変認知遅れに関する研究) **SMV Gwynne, DA Purser, DL Boswell, and A Sekizawa**

Scale modeling and numerical simulation of smoke control for rescue stations in long railway tunnels (長大トンネル内救助拠点の煙制御に関する相似則と数値シミュレーション) **Ying Zhen Li, Bo Lei, and Haukur Ingason**

Representing evacuation behavior in engineering terms (工学的に避難性状を説明する手法) **Steven Gwynne, Erica Kuligowski, and Daniel Nilsson**

Fire Protection Engineering 2nd Quarter 2012

Date Kine 2012 : Issues and Future Directions for Water Mist Fire Protection Systems (ウォーターミスト防火システムの課題と将来性) **Jack R. Mawhinney**

NFPA 13 Sprinkler System Design Density Curves – Where Did They Come From? (NFPA13 スプリンクラーヘッドの配置計画法一どのようにして決まったのか) **Jack R. Mawhinney**

The Whys Behind FM Global Data Sheets 2-0 and 8-9 (FMデータシート2-0及び8-9の背景) **Weston C. Baker Jr.,**